

## 株式会社アルラ

### 【会社概要】

私たちは、健康な住宅に役立つ情報と商材（安全で高性能な歯磨き剤や、有機農業の啓蒙等）を、分野の壁を持たずに取り扱っている会社です。自然住宅に住まれる健康志向の方に共通したニーズにおいて、医療機関との連携で健康な生活に必要な、情報や商材をご提供しています。



### ■ホウ酸系防蟻剤「エコポロンPRO」

エコポロンは、日本で最初に木材保存協会の認定を取得した、ホウ酸系防蟻剤です。鹿児島にある京都大学の野外防蟻試験場にて、過酷な試験に長期間性能を保持できることが確認されています。

### ■寺院、文化財でも実績を重ねています。

熊本城、東本願寺、二条城、犬山寂光院などで採用され、他に、古民家再生でも活躍しています。雨に濡れない限り効果は半永的で、木材腐朽菌も抑えます。

### 【トピックス】

#### 工場見学随時募集中！

発売以来、蟻害のない「エコポロンPRO」の実績が認められ、令和2年から、保証制度が大幅に強化されました。従来の、性能保証10年は最大30年に。既存建築や布基礎、古民家、文化財などの損害補償も、5年間可能。性能保証、損害補償共に、大手の損保会社保証です。

<お問合せはこちら>  
連絡先⇒ 0774-71-8833

### 【会員へのメッセージ】



代表取締役 岩月淳 氏

アルラの社名は、チベット医学で最も多く使われる薬草の名前に由来します。青海省の西寧にある、アルラチベット医学センターの日本支部の役割を持ち、3,000年間継承されてきた伝承医療の精神を学びながら、日本での社会活動を営んでおります。10年前に自宅にエコポロンを採用して以来、日本に普及したいと強く想い、地球の会の会員様に、ご案内させていただいております。

## 『リモート見学会大会』開催のご案内

Withコロナ時代が到来し、モデルハウス集客を中心としたビジネスモデルの変化が予想される中、地球の会では6月から新事業であるリモート見学会大会を開催しております。

この大会は、各社のリモート運営のスキルと接客・営業力の早期向上を目的として開催しています。他社のリアルな取り組みを学べるまたとない機会です。是非ご参加ください。

<リモート見学会大会出場社を随時募集しております>

### ----- <今後の対戦カード> -----

第8試合 「(株)安成工務店 福岡支店さま 対 (株)アトリエデフさま」

第9試合 「(株)梶谷建設さま 対 (株)イトコーさま」

第10試合 「(株)エコ建築考房さま 対 (有)福富建設さま」

※ 過去7回分のリモート見学会大会の録画映像をご視聴いただくことができます。詳しくは事務局までお問い合わせください。

## 『建築家会員と工務店会員 東西合同WEB交流勉強会』開催報告

2020年7月16日に『建築家会員と工務店会員 東西合同WEB交流勉強会』をWEB(ZOOM)にて開催いたしました。

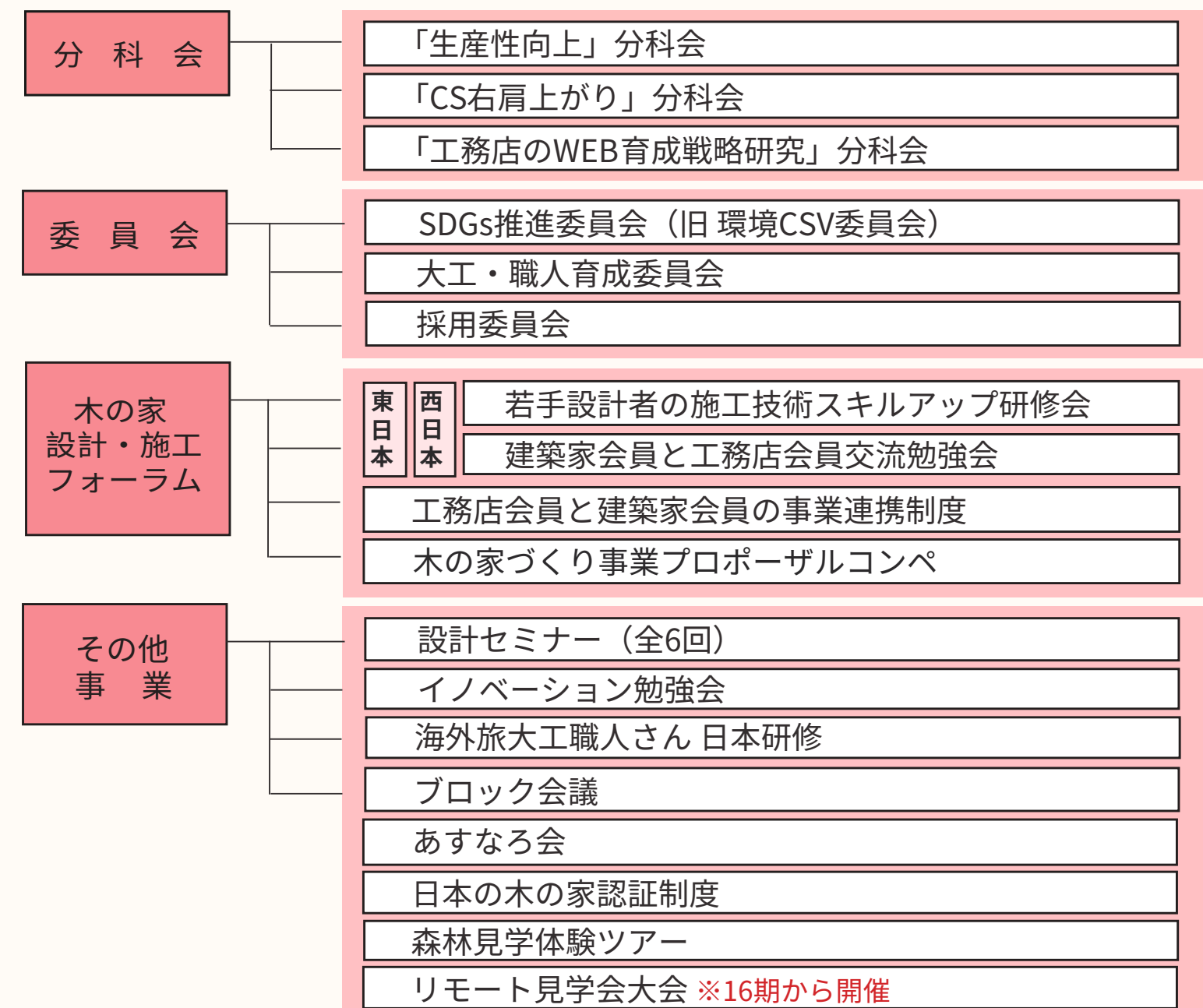
当日は、「八王子の家」(MOO空間設計室×大野建設)と、「京町屋でハーレーと暮らす」(半海宏一建築設計事務所×小野建築設計)、2つの事例報告の後、座談会を行いました。座談会では、建築家会員と工務店会員の協業の意義やポイントについて話し合いが行われ、その中で今後に繋がるリアルな課題も浮き彫りになりました。



地球の会 Vol.59  
NPO法人 環境共棲住宅  
2020年8月15日発行  
〒530-0022大阪府北区浪花町1-23第10新興ビル601  
TEL06-6292-8121 FAX06-6292-8122  
e-mail:info@chikyunokai.com  
http://www.chikyunokai.com  
発行責任者: 安成信次

## 第16期 地球の会各種事業のご案内

第16期も会員の皆様と共に、業界における共通課題の解決や、各地域で展開する各社の発展に結びつく事業を推進して参ります。6月からは新規事業「リモート見学会大会」もスタートしています。16期もどうぞご期待ください。

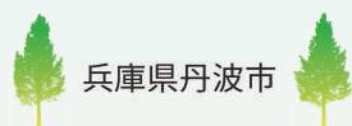


※ 『リモート見学会大会』  
コロナ禍にあって、会員各社のリモート運営スキルと接客・営業力の早期向上を目的に、16期より開催。詳細は4頁をご覧ください。



株式会社 由良工務店 / KOTOS

代表取締役 由良 俊也 氏



兵庫県丹波市

コトを起こして  
『丹波を、建てる』

幸せを提供していく、  
由良工務店。

<http://kotos.jp>



KOTOS 由良工務店社屋

「家づくり」から  
「くらしづくり」へ

「私は、家は“巣”だと思うんですよ。

5月になったら軒先の巣でツバメがピーピー鳴いている姿は素晴らしいじゃないですか。

狭苦しい小さな巣に何羽もピーピー鳴いている姿を見ているとこれが家なのだと思うのですよ。彼らが大きく育って飛び立つときの姿を見ていると、とても感動しますね。きっと家族のぬくもりに感謝しながら飛び立っていくのだと思います。

あの光景を見ていると、家とはこういうモノなのだなぁとも思います」

「家とは何ですか？」と問うと由良さんはいきなりそんな素晴らしい話をしてくれました。

「人間も彼らと同じ生き物です。家は決して大きさとか性能ではないのですよ」やさしい柔らかな眼、表情で話される由良さん。大学を卒業して流通関係に就職したのはパプルの絶好調期だったが、このまま都会で勤めてもどんな夢があるのだろう。自分の家も持てないかもしれな

いと自分の肌に合わない都会での生活をあきらめ、丹波で工務店を営む父親のもとに帰った。

42才で父親の跡を継いだときの由良工務店は、大工13人を抱える、いわゆる建築屋さんだった。そういう昔からの会社の状態に、何かしら将来の不安を感じていた。

決して若い人に夢のある、面白い会社だと思ってもらえるような会社ではなかった。

大学では外国語学部という、およそ建築とは関係のない所だった。しかし、そのことが幸いしたのか、もっとお客さんの方を向いた楽しい会社になりたい、折角この丹波というところに生まれたのだから、もっと地域のことを地域の人々のくらしを考える会社になりたいという想いが少しずつ彼の頭の中で大きくなっていった。

「KOTOS」ブランド誕生

2012～13年頃、由良工務店も所属する「ひょうご木の住まい協議会」でマーケティングの勉強会があった。それまでそのような勉強をしたことがなかった由良さんは、「目からうろこが



KOTOS 由良工務店のモデルハウス（外観）



『oRiFuSHi (オリフシ)』案内シート



『oRiFuSHi (オリフシ)』 (外観)

落ちるようだった」という。と同時に、今の会社は変わらなければいけないと、日頃思っていたことが間違いないと勇気ももらった。

このことをきっかけに、由良工務店の新しい方向を本格的に考える社内プロジェクトを発足させ、2年後には「KOTOS (コトス)」という新しいブランドが生まれた。コトスとは、この丹波で住宅づくりということにとられない様々なコトを起こす会社という意味だ。「コトス・フィロソフィー」という冊子の最初の扉にこう書かれている。

「暮らしをつくるということは家をつくるだけではなく、人や自然とのつながりや、よりよい地域の未来を創造的に考えること。

由良工務店は“工務店”として積み上げてきた経験と技術ネットワークを基盤に、これからは“工務店”の枠を超えて活動するため、社名を『KOTOS』に変更することにしました。新しく、心地よい、くらしとライフスタイルを実現する。モノづくりだけにとどまらないいろいろな『コト』を提案する会社。いい家、家族、丹波のためにあんなコト、こんなコト。いいコトいろいろ生み出す会社です。」

今、由良工務店はKOTOSというブランドのもと、丹波に新しい風を起こしている。

ちいさな丹波計画

「コトスは丹波を建てる」という言葉を、由良さんから最初にお聞きしたのは5年くらい前だった。

「大きく出たなあ」とびっくりしたのが最初の印象だったが、その考え方・中身は、「丹波に住んでいる私たちには当たり前になっていて、気づいていない丹波の魅力がある。それを私たちが気づき、守り、育てていく。次の世代が育つ丹波を、創ろう。家をつくるだけではなく、丹波を建てるKOTOSでありたい」ということであった。

さらに、「ちいさな丹波計画」という地域活性化の一環として「オリフシ村計画」が展開されている。

3～4世帯の若い世代が、ある村の一角、330坪の土地に一つの小さな村を作って、一つの公園の中に3～4棟の住宅を建てて住んでいる。それぞれを区切る塀も境界もない。真ん中に川のような水路が流れ、一帯は芝生に覆われ様々な広葉樹が植えられ、まるで公園の中に何軒かの家が建っているような風景である。

こんな光景は殆ど見たことがない。四季折々の変化と暮らしの節目を感じながら都会から来た若い家族が一体となって暮らしている。

そこには新たなコミュニティが生まれている。小さな子どもたちの声が途絶えて久しくなっていた村の人たちにも「村が明るく元気になった」と、とても歓迎されている。

今、この「ちいさな丹波計画」は他の村の一角でも又、新たな計画が始まっている。こうしてKOTOSは今、丹波に少しずつ変化を起こしている。

さまざまな分野で  
幸せを提供する会社へ

「由良工務店はコトスという会社になりました。

これからは、社員みんなが、自分がやりたいこと、思っていることをどんどん具体的につくって欲しいと思っています。コトスの考え方でみんながそれぞれの分野の経営者となって、この丹波という地域で、様々なコトを起こして欲しいと思っています。そんな集団になりたいのです」と由良さんは目を輝かせる。

コトスはきっと「丹波と建てる」会社になる、そう確信した。